

登録コード	L2961200	開講年度	2026				
担当教員	護山 真也			副担当			
授業科目	古典語						
英文授業名	Classical Language: Sanskrit						
授業タイトル	Sanskrit I						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限
講義室	人文501 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前が対象】グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力			サンスクリット語文法の知識を身につけ、それとの比較で英語等の言語に関する理解を深めることができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			サンスクリット語文法の知識を身につけ、それとの比較で英語等の言語に関する理解を深めることができるようになる。			
	【2023年度以降が対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。 【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			サンスクリット語文法の知識を身につけ、それとの比較で英語等の言語に関する理解を深めることができるようになる。			
	【2023年度以降が対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			サンスクリット語文法の知識を身につけ、それとの比較で英語等の言語に関する理解を深めることができるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	インドの哲学・宗教・文学を表現するために用いられてきた言語がサンスクリット語です。インド＝ヨーロッパ語族に属する言語ですから、英語やドイツ語・フランス語などと同じ語族であり、それらの言語の構造を理解するためにも、学習しておくとは有益な言語です。複雑な活用などがあるため最初は難しく感じるかもしれませんが、授業では、文字の学習からはじめて、できるだけ時間をかけて解説をしていきます。また、毎回、練習問題を宿題としますので、それに取り組むことで、サンスクリット語の考え方が身につくようになるでしょう。						
授業計画	第01回：イントロダクション／文字の学習 第02回：文字の学習 第03回：第一動詞（parasmaipada） 第04回：a語幹名詞の変化 第05回：第一動詞（atmanepada） 第06回：連声法　：母音連声 第07回：連声法　：ヴィサルガに関する連声 第08回：連声法　：子音連声 第09回：i語幹名詞など 第10回：動詞の過去形 第11回：子音語幹名詞など 第12回：行為者名詞／親族名詞 第13回：代名詞 第14回：代名詞　／関係代名詞 第15回：まとめ・授業アンケート						
成績評価の方法	毎回の練習問題の達成2割、筆記試験8割で判断します。						
成績評価の基準	サンスクリット語の基本的な文法事項を理解していることを水準とし、そこから応用的な文章がどの程度理解できるかに応じて、やや上にあるもの、かなり上にあるもの、卓越したものと認めます。						
事前事後学習の内容	毎回の授業の際に、練習問題が与えられます。授業の内容を踏まえて（事後学習）、練習問題を解いてくること（事前学習）が必要になります。						
履修上の注意	毎回、課題（練習問題）が出ます。						
質問、相談への対応	基本的にメール（smoriyam@shinshu-u.ac.jp）で受け付けます。						
教科書	初回時に教科書となる冊子を配布します。						
参考書	できるだけ次の参考書を手元に置いておくことをお勧めします。 辻直四郎『サンスクリット文法』岩波書店（岩波全書），1974年。 また、次の本はサンスクリット文法の学習補助として有益です。 赤松明彦『サンスクリット入門』中央公論新社（中公新書），2024年。						